



TITLE:

# The coincidence of fields of moduli for non-hyperelliptic curves and for their Jacobian varieties

AUTHOR(S):

関口, 力

---

CITATION:

関口, 力. The coincidence of fields of moduli for non-hyperelliptic curves and for their Jacobian varieties. 代数幾何学シンポジウム記録 1979, 1979: 58-76

ISSUE DATE:

1979-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/212580>

RIGHT:

1

The coincidence of fields of moduli for non-hyperelliptic  
curves and for their jacobian varieties

中大 理工 関 口 力

Field of moduli の概念は、松阪氏により導入され、志村氏により、ほとんど正標数の場合であるが、curve あるいは polarized abelian variety 等についていろいろの結果が出されている。しかしながら、正標数の場合、考察はこれといったものの inseparability の部分が明確でなく、その明確な定義は小泉 [3] により始めて導入され、お蔭により正標数の場合にも考察がし易くなったのである。ここでは、正標数の場合に non-hyperelliptic curve とその polarized jacobian variety の field of moduli の一致することを示す。

### § 1. Field of moduli

以下、universal domain  $\Omega$  を固定する。 $\Omega$  の部分体  $K$ 、 $K$  上定義された曲線あるいは偏極アーベル多様体  $E$  と  $E'$  について、geometric isomorphism

$$P/k \sim P'/k' \stackrel{\text{def.}}{\iff} \Omega \supset K \supset K' \text{ st. } P \otimes_K K' \simeq P' \otimes_{K'} K$$

で定義する。このとき、 $P$  の field of moduli  $k_P$  は次のように定義される。

$$\Omega \supset k_P : \text{field of moduli for } P \stackrel{\text{def.}}{\iff} \begin{cases} \text{i) } k_P = \bigcap_{P'/k' \sim P} k' \\ \text{ii) for } \forall \sigma \in \text{Aut}(\Omega), \\ P \sim P^\sigma \iff \sigma|_{k_P} = \text{id}_{k_P} \end{cases}$$

Field of moduli に関して、次の定理が基本的である。

定理. complete non-singular curve ある  $C$  は polarized abelian variety に対し、field of moduli が存在する。  
(例えば、Koizumi [3] 参照。)

## § 2. 問題と結果

以下、 $M_g$  を genus  $g$  の complete non-singular curve の coarse moduli scheme,  $A_{g,d}$  を degree  $d$  の polarization をもつ次元  $g$  の abelian variety の coarse moduli scheme とする ([4] 参照)。

問題 1.  $C$  を genus  $g$  の complete non-singular curve,  $x$  をそれに対応する  $M_g$  上の点とした

とき,

$$k_c = k(x)$$

となるか。但し,  $k(x)$  は  $M_g$  における  $x$  の剰余体である。

問題 2.  $P$  を degree  $d$  の polarization を持つ次元  $g$  の abelian variety とし,  $x$  をそれに対応する  $A_{g,d}$  上の点としたとき,

$$k_P = k(x)$$

となるか。

この二つの問題に関しすぐわかることは

命題.  $P$  を curve あるいは polarized abelian variety とし, それに対応する moduli scheme 上の点を  $x$  としたとき,  $k_P$  は  $k(x)$  上高々 purely inseparable である。

これから, 上の問題は標数 0 の場合成り立つのであるが, 正標数の場合は今正解がわかっていない。尚, 標数 0 の場合, Bailey, Shimura により論じられておりよく知られた事実である。

Field of moduli は定義体の下限であり, 次に

問題に在るものはそれが最初かどうかである。

問題 3  $P$  を complete non-singular curve あるいは polarized abelian variety としたとき,  $P$  の field of moduli  $k_P$  上定義された  $P'$  で,  $P' \sim P$  となるものが存在するか。

この問題に関しては, Shimura [7] により, 一般には否定的な結果が出ている。

定理 (Shimura)  $P$  を標数 0 の体上定義された次元  $g$  の generic polarized abelian variety とする。このとき,

$$g: \text{奇数} \implies \exists P'/k_P \text{ s.t. } P \sim P',$$

$$g: \text{偶数} \implies \nexists P'/k_P \text{ s.t. } P \sim P'.$$

問題 1, 2, 3 は coarse moduli scheme がどのくらい coarse であるかを示唆するものであり, 基本的に重要な問題である。

我々の取り扱う問題は, 最初に述べたように, 次の問題である。

問題 4  $C$  を genus  $g$  ( $\geq 2$ ) の complete non-singular curve,  $P = (J(C), \chi(C))$  をその polarized jacobian variety としたとき,

$$h_C = h_P$$

であるが、標数 0 の場合、これは簡単なことであり、field of moduli は (ii) だけで特徴づけられ、Torelli map が injective であることを用いれば等号の成り立つことがわかる（これは小泉氏の指摘による）。正標数の場合にも同様に成立することが望まれるのであるが、残念ながら今のところ non-hyperelliptic に限らざるを得ない。尚、Oort と Steenbrink が、Torelli map が  $\pi$  を locally closed immersion かと調べてあり、従って、locally closed immersion となる点では、問題 1, 2 より自動的に問題 4 が肯定的に得られることを注意しておく。次が我々の主定理である。

定理 I.  $\mathbb{C}$  を標数  $p$  ( $> 0$ ) の体上定義された complete non-singular curve とし、 $(J(C), \lambda(C))$  をその polarized jacobian variety とするとき、

$$h_C = h_{(J(C), \lambda(C))}$$

が成り立つ。

genus  $g$  を 3 以下に限るならば、Oort-Ueno の結果

定理 (Oort-Veno).  $P$  を 2 ある  $11$  は 3次元の principally polarized abelian variety としたとき, good stable curve  $C$  が存在し,

$$(\mathcal{J}(C), \lambda(C)) \sim P$$

が成り立つ

( [6] 参照 ).

があるが, [6] の方法を精密化することにより  $g=3$  の場合に定義体も含めた次の結果を得る.

定理 II.  $P$  を体  $K$  上の 3次元 principally polarized abelian variety としたとき,  $K$  上の good stable curve  $C$  が存在し,

$$(\mathcal{J}(C), \lambda(C)) \simeq P$$

となる.

### § 3. 定理の証明.

まず, Oort-Veno の補題の精密化から始める.

命題 1. (Oort-Veno).  $(A, m)$  を discrete valuation ring, その剰余体を  $k = A/m$ , 商体を  $K = \text{f.f.}(A)$  とおく.  $(\pi, \lambda)$  を  $\text{Spec } A$  上の principally polarized abelian

scheme,  $C$  を  $K$  上の genus  $g$  ( $\geq 2$ ) の good stable curve とし, 同型

$$\phi: (J(C), \lambda(C)) \simeq (\mathfrak{X}, \lambda) \otimes_A K$$

が与えられているとする。このとき,  $\text{Spec } A$  上の good stable curve  $\mathcal{C}$  で, 次の条件を満足するものが存在する。

$$\mathcal{C} \otimes_A K \simeq C,$$

$$\exists \phi: (J(\mathcal{C}), \lambda(\mathcal{C})) \simeq (\mathfrak{X}, \lambda) \quad \text{すなわち} \quad \phi \otimes K = \phi_0.$$

証明の方針.  $K$  が十分大きい時には,  $C$  が  $J(C) \simeq \mathfrak{X} \otimes_A K$  に埋め込まれ,  $\mathfrak{X}$  の中で  $C$  の scheme-theoretic な closure を取れば, それが求める  $\text{Spec } A$  上の good stable curve となる ([6] 参照). 一般には, 一旦,  $K$  を適当な有限次拡大体  $K'$  に抜け,  $C \otimes K'$  を  $J(C) \otimes K' \simeq \mathfrak{X} \otimes_A K'$  に埋め込み,  $C \otimes K'$  を上の議論で  $\text{Spec } A'$  上の good stable curve  $\mathcal{C}'$  に抜ける. 但し,  $A'$  は  $A$  の  $K'$  における integral closure を 1 つの maximal ideal で localization したものである. ここで,  $\mathcal{C}'$  は generic fibre で  $K$  上への descent data を持っているわけであるが, これを [1], Theorem 2.4 の証明と同じ論法により,  $\text{Spec } A'$  から



$\text{Spec } A$  の descent data に伸ばすことが出来、 $\mathcal{C}'$  は  $\text{Spec } A$  上の good stable curve にあつてことが出来る。

この命題より、簡単に次の系を得る。

系 2.  $(A, m)$  を regular local ring,  $k = A/m$ ,  $K = \text{f.f.}(A)$  とする。  $(\mathcal{X}, \lambda)$  を  $\text{Spec } A$  上の principally polarized abelian scheme,  $C$  を  $K$  上の good stable curve とし、 $(J(C), \lambda(C)) \simeq (\mathcal{X}, \lambda) \otimes_A K$  とする。このとき、 $k$  上の good stable curve  $C_0$  が存在し、

$$(J(C_0), \lambda(C_0)) \simeq (\mathcal{X}, \lambda) \otimes_A k$$

となる。

次の命題が、我々の議論の道具になるものであり、non-hyperelliptic に制限する理由はここにある。

命題 3.  $(A, m_A)$  を complete discrete valuation ring,  $k = A/m_A$ ,  $K = \text{f.f.}(A)$  とする。  $K'$  を  $K$  の finite algebraic extension とし、  $A'$  を  $A$  の  $K'$  における integral closure,  $k' = A'/m_{A'}$  とおく。  $(\mathcal{X}, \lambda)$  を  $S = \text{Spec } A$  上の principally polarized abelian scheme,  $C'$  を  $K'$  上の complete non-singular curve,  $C_0$  を  $k$  上の non-hyperelliptic

curve とし, 同型写像

$$\psi: (J(C'), \lambda(C')) \simeq (\mathfrak{x}, \lambda) \otimes_A K',$$

$$(J(C_0), \lambda(C_0)) \simeq (\mathfrak{x}, \lambda) \otimes_A K$$

が与えられているものとする。このとき, 命題 1 により  $C'$  の  $S' = \operatorname{Spec} A'$  上の deformation  $\mathcal{C}'$  が存在するか, その special fibre  $\mathcal{C}'_{A'}$  は

$$\mathcal{C}'_{A'} \simeq C_0 \otimes_A K'$$

となることを仮定する。このとき,  $S$  上の curve  $\mathcal{C}$  と同型

$$\phi: (J(\mathcal{C}), \lambda(\mathcal{C})) \simeq (\mathfrak{x}, \lambda),$$

$$f: \mathcal{C} \otimes_A A' \simeq \mathcal{C}'$$

が存在し,  $\phi \otimes_A K' = \psi$ ,  $J(f) = \phi \otimes_A A'$  となる。

証明. 任意の整数  $n$  ( $\geq 0$ ) に対し,  $A_n = A/\pi_A^{n+1}$ ,  $S_n = \operatorname{Spec} A_n$ ,  $A'_n = A'/\pi_A^{n+1}A'$ ,  $S'_n = \operatorname{Spec} A'_n$  とおく。また,  $C'_n = \mathcal{C}' \times_{S'} S'_n$ ,  $(X_n, \lambda_n) = (\mathfrak{x}, \lambda) \times_S S'_n$ ,  $(X'_n, \lambda'_n) = (\mathfrak{x}, \lambda) \times_S S'_n$  とおく。 $n=0$  のとき,  $C_0$  が与えられているゆえに,  $n$  に関する帰納法により,  $n$  に対し,  $S_n$  上の curve  $C_n$  として  $C_n \times_{S_n} S'_n \simeq C'_n$ ,  $(J(C_n), \lambda(C_n)) \simeq (X_n, \lambda_n)$  となるものが得られたとする。このとき,  $\mathcal{L}(*; S_n \rightarrow S_{n+1})$ ,  $\mathcal{L}(*; S'_n \rightarrow S'_{n+1})$  によりそれぞれ, \*

の  $S_{n+1}$  上への lifting 全体,  $A'$  の  $S'_{n+1}$  上への lifting 全体とすれば, Grothendieck の議論 (SGA 1, Ex. III) によつて, lifting space の base point を適当に決めることにより,  $\mathcal{R}$  の可換な図式

$$\begin{array}{ccc}
 \mathcal{L}(C'_n; S'_n \rightarrow S'_{n+1}) & \xrightarrow{J} & \mathcal{L}(X'_n; S'_n \rightarrow S'_{n+1}) \\
 \nearrow \text{SI} & & \nearrow \text{SI} \\
 H^1(C_0, \check{\Omega}_{C_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A') & \xrightarrow{j \otimes 1} & H^1(X_0, \check{\Omega}_{X_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A') \\
 \nearrow \text{SI} & & \nearrow \text{SI} \\
 \mathcal{L}(C_n; S_n \rightarrow S_{n+1}) & \xrightarrow{J} & \mathcal{L}(X_n; S_n \rightarrow S_{n+1}) \\
 \nearrow \text{SI} & & \nearrow \text{SI} \\
 H^1(C_0, \check{\Omega}_{C_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A') & \xrightarrow{j \otimes 1} & H^1(X_0, \check{\Omega}_{X_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A')
 \end{array}$$

を得る。ここで,  $J$  は Torelli map,  $j$  は積写像

$$H^0(C_0, \Omega_{C_0}) \otimes H^0(C_0, \Omega_{C_0}) \longrightarrow H^0(C_0, \Omega_{C_0}^{\otimes 2})$$

を dualize したものであり,  $C_0$  が non-hyperelliptic であることから, injective である。この図式において,  $H^1(X_0, \check{\Omega}_{X_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A')$  の中で,

$$\begin{aligned}
 & \left( H^1(C_0, \check{\Omega}_{C_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A') \right) \cap \left( H^1(X_0, \check{\Omega}_{X_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A') \right) \\
 &= H^1(C_0, \check{\Omega}_{C_0}) \otimes_{\mathbb{R}} (\pi_A^{n+1} A' / \pi_A^{n+2} A') ;
 \end{aligned}$$

即ち,  $\mathcal{L}(X'_n; S'_n \rightarrow S'_{n+1})$  の中において,

$$\mathcal{L}(C'_n; S'_n \rightarrow S'_{n+1}) \cap \mathcal{L}(X'_n; S'_n \rightarrow S'_{n+1}) = \mathcal{L}(C'_n; S'_n \rightarrow S'_{n+1})$$

であるから,  $S_{n+1}$  上の curve  $C_{n+1}$  で

$$C_{n+1} \times_{S_{n+1}} S_n \simeq C_n, \quad C_{n+1} \times_{S_{n+1}} S'_{n+1} \simeq C'_{n+1},$$

$$(J(C_{n+1}), \lambda(C_{n+1})) \simeq (X_{n+1}, \lambda_{n+1})$$

なるものが存在する。以上により curve の系  $\{C_n/S_n\}$  が得られたわけであり、この系は  $S$  上の curve を決める。

この命題より、容易に次の系を得る。

系 4.  $(A, \mathfrak{m}_A)$  を discrete valuation ring,  $R = A/\mathfrak{m}_A$ ,  $K = \text{f.f.}(A)$  とし、 $A$  は条件 “ $K$  の有限な finite algebraic extension  $M$  において、その integral closure は finite  $A$ -module である” を満たすものと仮定する。  
 $L$  を与えられた  $K$  上の finite algebraic extension,  $B$  を  $A$  上の  $L$  における discrete valuation ring であり、 $\mathfrak{l} = B/\mathfrak{m}_B$  とおく。更に、 $R'$  を  $R$  上有限生成な拡大で、 $R$  の  $R'$  における algebraic closure は  $R$  上 separable であるとし、 $\mathfrak{l}'$  は  $R'$  と  $\mathfrak{l}$  を含み  $\mathfrak{l}' = R'\mathfrak{l}$  とする。

$(X, \lambda)$  を  $\text{Spec } A$  上の principally polarized abelian scheme,  $C'$  を  $L$  上の complete non-singular curve,  $C_0$  を  $R'$  上の complete non-singular non-hyperelliptic curve とし、同型字像

$$\psi: (J(C'), \lambda(C')) \longrightarrow (X, \lambda) \otimes_A L$$

が与えられているとする。このとき、命題 1  
により、 $C'$  の  $\text{Spec } B$  上の deformation  $C''$  が存在す  
るが、その special fibre を

$$C_0' = C' \otimes_B k$$

とおくとき、

$$C_0 \otimes_k k' \simeq C_0' \otimes_k k',$$

$$(X, \lambda) \otimes_{A'} B' \simeq (J(C_0), \lambda(C_0))$$

となるものとする。このとき、その中  
に於ける  $K$  の algebraic closure が  $K$  上 separable と  
なる  $K$  の有限生成拡大体  $K'$  と、 $K'$  上の curve  
 $C'$  で、 $C' = K' C$  とおくとき、

$$C' \otimes_{K'} K \simeq C \otimes_K K,$$

$$(J(C), \lambda(C)) \simeq (X, \lambda) \otimes_A K'$$

となるものが存在する。

定理 I の証明.  $k$  を標数  $p$  ( $> 0$ ) の体上定  
義された genus  $g$  ( $\geq 2$ ) の complete non-singular  
non-hyperelliptic curve とする。明らかに、 $\mathcal{H}_C$  は  
 $\mathcal{H}_{(J(C), \lambda(C))}$  上の高々 purely inseparable な拡大であ  
り、従って、求める等式を得る為には、この

inseparability があてはめられる。

$(X, \lambda)$  を  $K$  上定義された principally polarized abelian variety で,  $(X, \lambda) \sim (J(C), \lambda(C))$  となるものとする。このとき,  $C$  は  $K$  上有限次拡大体  $L$  上定義されているものと仮定して差し支えない。ここで,  $H_{g,1}$  を linear rigidification を  $g$  次元の principally polarized abelian scheme の fine moduli scheme ([4]参照) としたとき,  $(X, \lambda)$  の linear rigidification を適当に決めることにより, それは  $H_{g,1}$  上の  $K$ -rational point  $x$  を決める。ここで  $K = k(x)$  とし差し支えない。  $T$  を  $x$  の  $H_{g,1}$  における locus とし,  $H_{g,1}$  上の universal abelian scheme を  $T$  上に制限したものを  $(Z, \lambda)$  とおく。このとき,

$$(Z, \lambda)_x \simeq (X, \lambda)$$

である。ここで,  $T$  の simple closed point  $t$  で,  $(Z, \lambda)_t$  が non-hyperelliptic curve の polarized jacobian variety と geometrically isomorphic となっているものを選ぶ。  $A = \mathcal{O}_{T,t}$  とおけば,  $A$  は regular local ring であり,  $A/\mathfrak{m}_A$  は有限体 (それを  $\mathbb{F}_q$  ( $q=p^n$ )) と

おく),  $f.f.(A) = K$  となつてゐる。更に,  
 $(\mathfrak{X}, \Lambda) = (Z, \Lambda) \times_T \text{Spec } A$  とし,  $\{t_1, \dots, t_r\}$  を  $A$  の regular  
parameter とするとし,

$$A^{(r)} = A_{(t_r)}, \quad A_r = A/(t_r), \quad f.f.(A_r) = K_r,$$

$$A^{(r-1)} = (A_r)_{(t_{r-1})}, \quad A_{r-1} = A_r/(t_{r-1}) = A/(t_r, t_{r-1}), \quad f.f.(A_{r-1}) = K_{r-1},$$

-----

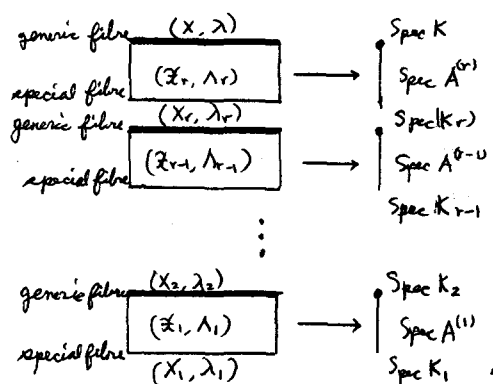
$$A^{(1)} = (A_2)_{(t_1)}, \quad A_1 = A_2/(t_1) = A/(t_r, \dots, t_1) = \overline{A}_t, \quad f.f.(A_1) = K_1 = \overline{K}_t$$

とあつて,

$$(\mathfrak{X}_i, \Lambda_i) = (\mathfrak{X}_i, \Lambda) \otimes_A A^{(i)},$$

$$(X_i, \lambda_i) = (X, \Lambda) \otimes_A K_i$$

とおく。このとき, 次の様な deformation の金貨を  
得る。



次に,  $B^{(r)}$  を discrete valuation ring  $A^{(r)}$  の  $L \wedge \dots$   
の拡張とし,  $L_r = B^{(r)}/\mathfrak{m}_{B^{(r)}}$  とおく。  $B^{(r-1)}$  を  $A^{(r-1)}$  の

$L_r$  の拡張とし,  $L_{r-1} = B^{(r-1)}/\mathfrak{m}_{B^{(r-1)}}$  とおき, 以下同様にし, 体と valuation ring

$$L_r, L_{r-1}, \dots, L_1; B^{(r)}, B^{(r-1)}, \dots, B^{(1)}$$

を得る. 更に, 命題 1 を用いれば, 次に, smooth curve

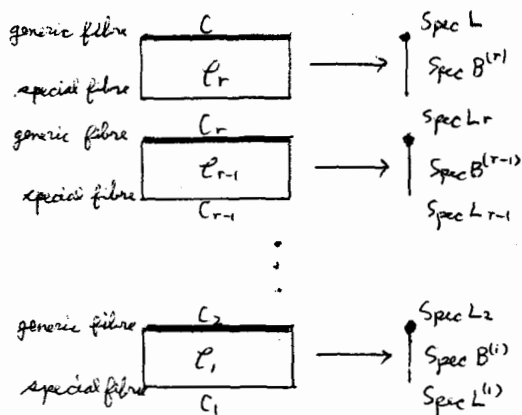
$$\mathcal{C}_r/\mathrm{Spec} B^{(r)}, \mathcal{C}_{r-1}/\mathrm{Spec} B^{(r-1)}, \dots, \mathcal{C}_1/\mathrm{Spec} B^{(1)}$$

を得,

$$\mathcal{C}_r \otimes_{B^{(r)}} L \simeq \mathcal{C}, \mathcal{C}_r \otimes_{B^{(r)}} L_r \simeq \mathcal{C}_{r-1} \otimes_{B^{(r-1)}} L_r, \dots, \mathcal{C}_2 \otimes_{B^{(1)}} L_2 \simeq \mathcal{C}_1 \otimes_{B^{(1)}} L_2,$$

$$(\mathcal{I}(\mathcal{C}_r), \lambda(\mathcal{C}_{r-1})) \simeq (\mathfrak{x}_r, \lambda_r) \otimes_{A^{(r)}} B^{(r)}, \dots, (\mathcal{I}(\mathcal{C}_1), \lambda(\mathcal{C}_1)) \simeq (\mathfrak{x}_1, \lambda_1) \otimes_{A^{(1)}} B^{(1)}$$

となる. 従って,  $\mathcal{C}_2 \otimes_{B^{(1)}} L_2 = \mathcal{C}_2$  とおけば, 次の様な鎖を得る.



ここで,  $\mathcal{C}_1, (\mathfrak{x}_1, \lambda_1)$  と separable extension  $L_1/K_1$  は系 4 を適用すれば, その中で  $K_2$  の algebraic closure



が  $K_2$  上 separable であるような  $K_2$  上有限生成な拡大体  $K_2'$  と,  $K_2'$  上定義された curve  $C_2'$  を得,  $L_2' = K_2' L_2$  とするとき,

$$C_2 \otimes_{L_2} L_2' \simeq C_2' \otimes_{K_2'} L_2',$$

$$(J(C_2'), \lambda(C_2')) \simeq (x_2, \lambda_2) \otimes_{A_2} K_2'$$

となる。再び,  $(C_2, (x_2, \lambda_2))$  に  $K_2'/K_2$  に系 4 を適用し, 同様の議論を続けると, 最終的に, その中の  $K$  の algebraic closure が  $K$  上 separable であるような,  $K$  上有限生成な拡大体  $K'$  と,  $K'$  上定義された curve  $C'$  で,

$$(J(C'), \lambda(C')) \simeq (x, \lambda) \otimes_K K'$$

となるものが得られ, 我々の証明が完了する。

定理 II を証明する為に, 次の命題を準備する。

命題 5.  $C$  を標数 0 の体上定義された complete non-singular curve とし,  $C$  は automorphism ≠ identity 以外に持たないとする。このとき,  $(x, \lambda)_K \sim (J(C), \lambda(C))$  なる  $K$  上の curve  $C'$  が存在し,  $C' \sim C$  かつ  $(J(C'), \lambda(C')) \simeq (x, \lambda)$  となる。

証明.  $C$  の定義体を  $L$  とするとき,  $L$  は  $K$

$K$  の finite Galois extension としてよい。  $\text{Gal}(L/K) = G$  とおく。このとき、任意の  $\sigma \in G$  に対し、

$$(J(C^\sigma), \lambda(C^\sigma)) \simeq (J(C), \lambda(C))$$

であり、従って、Torelli の定理により、geometric isomorphism

$$\lambda_\sigma : C \rightarrow C^\sigma$$

を得る。ところで、 $C$  は identity 以外に automorphism を持たないことから、 $\lambda_\sigma$  は  $L$  上定義され、更に cocycle condition

$$\lambda_\tau \cdot \lambda_\sigma = \lambda_{\tau\sigma} \quad (\tau, \sigma \in G)$$

が成り立つ。従って、descent の理論により、 $K$  上の curve  $C'$  の存在を得る。

定理 II の証明.  $(X, \lambda)$  を  $k$  上定義された 3 次元の principally polarized abelian variety とする。定理 I における証明と同様に、 $H_{3,1}$  を linear rigidification をもつ 3 次元の principally polarized abelian scheme の fine moduli scheme とする。 $(X, \lambda)$  の linear rigidification  $\phi$  を適当に決め、 $(X, \lambda, \phi)$  の決める  $H_{3,1}$  の  $k$ -rational point を  $\alpha$  とおく。ここで、また  $k = K(x)$  としてよい。  $A = \mathcal{O}_{H_{3,1}, \alpha}$  とおき、

$H_{3,1}$  の universal abelian scheme を  $\text{Spec } A$  に制限したものを  $(X, \lambda)$  とおけば,  $(X, \lambda) \otimes_A k \simeq (X, \lambda)$  であり,  $(X, \lambda)$  の generic fibre は, generic な genus 3 の curve の polarized jacobian variety と geometrically isomorphic になっている。従って, 命題 5 と系 2 を用いて, 我々の結果を得る。尚, この証明の基本的なアイデアは Oort-Ueno [6] のそれと同じものである。

### 文 献

- [1] P. Deligne and D. Mumford, The irreducibility of the space of curves of given genus, Publ. Math. 36 (Volume dedicated to O. Zariski), I.H.E.S. (1969), 75-109.
- [2] A. Grothendieck et al, Séminaire de géométrie algébrique 1, Lecture notes in Math. 224, Springer-Verlag, Heidelberg, 1971. Referred to as SGA1.
- [3] S. Kaizumi, The fields of moduli for polarized abelian varieties and for curves, Nagoya Math. J., 48 (1972), 37-55.
- [4] D. Mumford, Geometric invariant theory, Ergebnisse, Springer-Verlag, Heidelberg, 1965.
- [5] F. Oort, Finite group schemes, local moduli for

abelian varieties and lifting problems, algebraic geometry, Oslo 1970, Proceedings of the 5<sup>th</sup> Nordic Summer School in Math., edited by F. Oort.

- [6] F. Oort and K. Ueno, Principally polarized abelian varieties of dimension two or three are Jacobian varieties, J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Section IA, Math. 20 (1973), 377-381.
- [7] G. Shimura, On the field of rationality for an abelian variety, Nagoya Math. J., 45 (1972), 167-178.